

# 第51回 アフリカ・東南アジアのイスラーム化

## 1 アフリカのイスラーム化

・北アフリカ以外のアフリカでは、ナイル川をさかのぼった上流域のエチオピア・西アフリカ・アフリカ東岸などで、黒人の王国が栄えた。

<エチオピア>

- ☆ ( ) (前 920 年ころ～後 350 年ころ)
- ・ナイル川上流の国で、エジプトを除けばアフリカ最古の黒人王国。  
→アッシリアの侵入後、中流域の ( ) に南下した。  
※これ以後のクシュ王国をメロエ王国とも呼ぶ。
- ・メロエ文字を利用したが、まだ未解読。



メロエのピラミッド  
古代エジプトとの関係が深い。  
製鉄技術にすぐれていた。

- ☆ ( ) (エチオピア王国) (紀元前後～12 世紀)
- ・4 世紀に、クシュ王国を滅ぼしてエチオピアを支配した。
- ・キリスト教のコプト派 (コプト教) を信仰していた。



阿克苏ムの石柱

この石柱は王の墓に建っており、墓標だったと考えられている。王国の滅亡年には諸説ある。

<西アフリカ>

- ☆ ( ) (7 世紀ころ～13 世紀半ばころ)
- ・西アフリカのニジェール川・セネガル川の上流域に建国された黒人王国。  
→サハラ ( ) と、ギニア ( ) ・象牙を交換するサハラ交易で栄えた。
- ・1150 年、 ( ) に攻撃され衰退していった。



マンサ＝ムーサ  
大量の金をばらまいたため、カイロの金相場は暴落した。

- ☆ ( ) (1240～1473 年)
- ・ ( ) 上流域に建国された黒人王国。
- ・ ( ) を受け入れて、交易の中心地として繁栄した。
- ・14 世紀には、モロッコの大旅行家 ( ) も訪れた。

- ◆ ( ) (在位 1312～1337 年)
- ・マリ王国の最盛期をもたらし、メッカ巡礼の際には金を湯水のように使った。



☆ ( ) (1464～1591年)

- ・ニジェール川流域に建国された黒人王国で、マリ王国を滅ぼした。
- ・ニジェール川中流の都市 ( ) が交易で栄え、16世紀には黒人による最初の大学も創設された。



ニジェール川  
西アフリカを流れ、ギニア湾に注いでいる。アフリカでは3番目に長い川である。

☆カネム=ボルヌー王国 (8世紀ころ～1846年)

- ・現在のチャドに建国された黒人王国。

<アフリカ東岸>

- ・インドやイスラーム世界との交易が盛んに行われ、モガディシュ・( )・( )・( )の海港都市が拠点として発展した。  
→ムスリム商人が多く訪れたため、現地のバントゥー諸語とアラビア語が混じり合った ( ) など、独自のスワヒリ文化が誕生した。

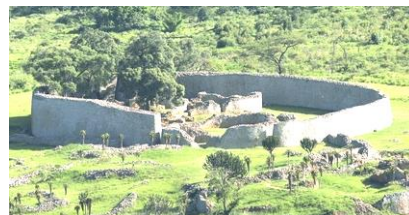
☆ ( ) (11世紀～19世紀)

- ・アフリカ南部のザンベジ川流域に建国され、金の交易で栄えた。
- ・巨大な石造遺跡である ( ) をのこしたとされる。



ジェンネの大モスク

現在のマリにあるジェンネはトンブクトウの近郊にある都市で、「双子の姉妹」と称されていた。泥で作られているため、「泥のモスク」とも呼ばれる。



グレート=ジンバブエ(大ジンバブエ遺跡)

現在のジンバブエにのこる巨大な石造遺跡。そもそもジンバブエとは「石の家」という意味である。モノモタパ王国の遺跡という説には、異論もある。

## 2 東南アジアのイスラーム化

- ・イスラーム世界が拡大していくと、ムスリム商人の活動も活発になっていった。  
→ムスリム商人は、( ) という三角帆の船を用いて、中国・インド・東南アジアの物産を「海の道」を通じてエジプトなどに運んだ。  
→そのなかで、イスラーム教を受け入れる東南アジアの国が登場した。

☆ ( ) (14世紀～1511年)

都…マラッカ ※現在のマレーシアにある

- ・マレー半島からスマトラ島を支配したイスラーム教国。  
→15世紀には、明の ( ) が南海大遠征の途中に立ち寄っている。



ダウ船

三角帆で、竜骨がなく釘を使わずに組み立てられている。21世紀の現在でも幅広く使用されている。

<インドネシアのイスラーム国家>

- ・スマトラ島北端の ( )、ジャワ島西部のバンテン王国、ジャワ島東部のマタラム王国などのイスラーム教国が、15～16世紀に建国された。